

試験地	受検種別	受 験 番 号						氏 名

（受験地変更者は上欄のほか、本日の受験地と仮受験番号を記入してください。）  
本日の受験地..... 仮受験番号 仮一.....

平成 23 年度  
2 級建築施工管理技術検定試験  
実地試験問題

次の注意事項をよく読んでから始めてください。

〔注 意 事 項〕

1. ページ数は、表紙を入れて 6 ページです。
2. 試験時間は、14 時 15 分から 16 時 15 分です。
3. 試験問題は、5 問題です。全問題解答してください。
4. 解答は、別の解答用紙の定められた範囲内に、黒鉛筆か黒シャープペンシルで記入してください。
5. この問題用紙は、計算等に使用しても差し支えありません。
6. この問題用紙は、実地試験の試験終了時刻まで在席した方のうち、希望者は持ち帰ることができます。  
途中退席者や希望しない方の問題用紙は、回収します。

**問題 1**

あなたが経験した**建築工事**のうち、あなたの受検種別に係る工事の中から、工程管理を行った工事を1つ選び、下記の工事概要を記入した上で、次の問いに答えなさい。

なお、**建築工事**とは、建築基準法に定める建築物に係る工事とする。ただし、建築設備工事を除く。

[工事概要]

イ. 工 事 名

ロ. 工 事 場 所

ハ. 工事の内容  $\left( \begin{array}{l} \text{新築等の場合：建物用途，構造，階数，延べ面積又は施工数量，} \\ \text{　　　　　　　　　　主な外部仕上げ，主要室の内部仕上げ} \\ \text{改修等の場合：建物用途，主な改修内容，施工数量又は建物規模} \end{array} \right)$

ニ. 工 期 (年号又は西暦で年月まで記入)

ホ. あなたの立場

ヘ. 業 務 内 容

1. 工事概要であげた工事でああなたが担当した工種において、与えられた工期限内に予定どおり工事を完了させるため、あなたが**実際に行ったこと**と、なぜそうすることで予定どおり工事が進むと考えたのか、**その理由を工種名**（鉄骨工事、タイル工事など）とともに**3つ**、それぞれ具体的に記述しなさい。

ただし、**実際に行ったこと**の記述内容が同一のものや、工程管理以外の品質管理や安全管理についての記述は不可とする。なお、工種名については、同一の工種名でなくてもよい。

2. 工事概要にあげた工事及び受検種別にかかわらず、あなたの今日までの建築工事の経験に照らし、**工期を短縮するための方法**と短縮できる**理由を工種名**とともに**2つ**あげ、その方法を行うことによって**派生する効果又は問題点**について、具体的に記述しなさい。

ただし、工期を短縮するための方法の記述内容が同一のものや、上記1. の実際に行ったことと同じ内容の記述は不可とする。なお、工種名については、同一の工種名でなくてもよい。

**問題 2**

次の建築工事に関する用語のうちから 5 つ選び、その用語の説明と施工上留意すべき内容を具体的に記述しなさい。

ただし、仮設以外の用語については、作業上の安全に関する記述は不可とする。

また、使用資機材に不良品はないものとする。

親綱

切梁のプレロード工法

グリッパー工法

軽量鉄骨壁下地の振れ止め

コンクリートの締固め

セルフレベルング工法

耐震スリット

鉄骨柱のベースモルタル

腹筋

ビニル床シートの熱溶接工法

フラットデッキプレート

ベンチマーク

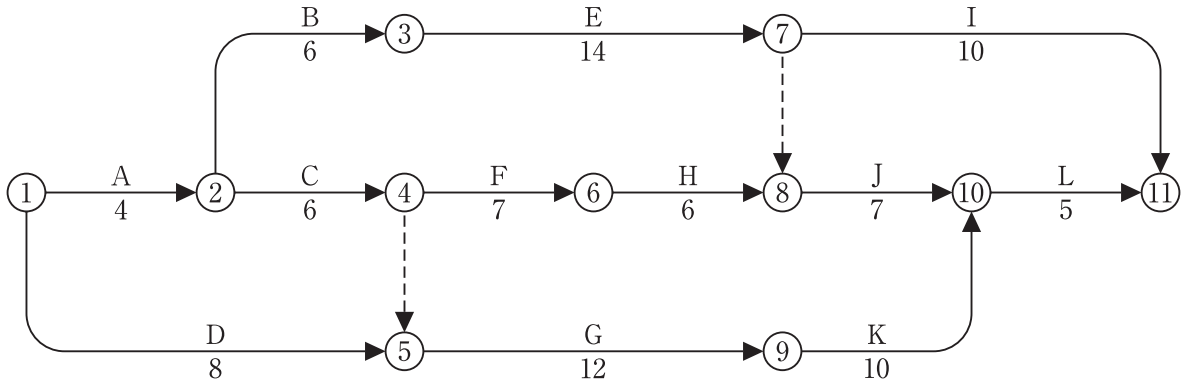
ボンドブレーカー

ルーフトレン

**問題 3**

図に示すネットワーク工程表について、次の 1. から 3. の問いに答えなさい。

なお、○内の数字はイベント番号、矢線の上段のアルファベットは作業名、下段の数値は所要日数を示す。



1. 工程表において、①から⑪までの**総所要日数**を答えなさい。
2. 工程表において、作業Hの**フリーフロート**は何日間であるか、**日数**で答えなさい。
3. 工程表において、作業Eと作業Hがそれぞれ2日間遅延したときの**クリティカルパス**を、**作業名**で工程順に並べて答えなさい。

**問題 4**

次の文章中、下線部の語句が適当なものは○印を、不適当なものは適当な語句を記入しなさい。

1. 軟弱な粘性土地盤を掘削するとき、矢板背面の土の重量によって掘削底面内部に滑り破壊が生じ、底面が押し上げられてふくれ上がる現象を、ポイリングという。
2. 鉄筋コンクリート梁に、コンクリートの鉛直打継ぎ部を設ける場合の打継ぎ面は、コンクリート打込み前の打継ぎ部の処理が円滑に行え、かつ、新たに打ち込むコンクリートの締固めが容易に行えるものとし、主筋と平行となるようにする。
3. コンクリートの打込み日を含む旬の日平均気温が4℃を下回る期間に行うコンクリート工事は、コンクリート打込み後の養生期間にコンクリートが凍結するおそれのある時期に行われる寒中コンクリート工事として扱う。
4. 鉄骨工事におけるトルシア形高力ボルトの締付け後の検査は、ボルトの半数について、ピンテールの破断の確認、1次締め後に付したマークのずれによる共回り・軸回りの有無、ナット回転量の確認及びナット面から突き出したボルトの余長の過不足を目視で検査する。
5. アスファルト防水において、立上りのルーフィング類を平場と別に張り付ける場合は、平場のルーフィング類を張り付けた後、その上に重ね幅 100 mm 程度をとって張り重ねる。
6. 塗装工事の各工程における塗料の塗付け量 ( $\text{kg}/\text{m}^2$ ) は、一般に、平らな面に実際に付着させる希釈後の塗料の質量で、施工ロスを含まない量を示す。
7. 鋼板製折板葺きにおいて、重ね形の折板は、2山ごとにタイトフレームに固定ボルト締めとし、折板の流れ方向における重ね部に使用する緊結ボルトの間隔は、600 mm 程度とする。
8. ジョイナーは、ボード類を壁・天井などに張るとき、突付けジョイント部、出隅・入隅などに目地隠しや化粧カバー、押えなどとして用いる目地材である。

**問題 5**

「建設業法」、「建築基準法施行令」及び「労働安全衛生法」に定める次の各法文において、それぞれ誤っている語句の番号を1つあげ、それに対する正しい語句を記入しなさい。

## 1. 建設業法（第24条の3第1項）

元請負人は、請負代金の出来形部分<sup>①</sup>に対する支払又は工事完成後における支払を受けたときは、当該支払の対象となった建設工事を施工した下請負人に対して、当該元請負人が支払を受けた金額の出来形<sup>①</sup>に対する割合<sup>②</sup>及び当該下請負人が施工した出来形部分<sup>①</sup>に相応する下請代金を、当該支払を受けた日から五十日<sup>③</sup>以内で、かつ、できる限り短い期間内に支払わなければならない。

## 2. 建築基準法施行令（第136条の3第6項）

建築工事等における根切り及び山留めについては、その工事の施工中<sup>①</sup>必要に応じて点検を行ない、山留めを補強し、排水<sup>②</sup>を適当に行なう等これを安全な状態に維持するための措置を講ずるとともに、矢板等の打ち込み<sup>③</sup>に際しては、周辺の地盤の沈下による危害を防止するための措置を講じなければならない。

## 3. 労働安全衛生法（第60条第1項）

事業者は、その事業場の業種が政令で定めるものに該当するときは、新たに職務につくこととなった職長<sup>①</sup>その他の作業中の労働者を直接指導又は監督<sup>②</sup>する者（作業主任者を除く。）に対し、次の事項について、厚生労働省令で定めるところにより、安全又は衛生のための訓練<sup>③</sup>を行わなければならない。

（第60条第1項 第1号から第3号は省略。）